

## 寅さん歩 その8-5

### 東京発祥之地めぐり～学問・文化編7～

平野 武宏

2012年（平成24年）8月東京都に移住した寅次郎、歩いていて街の中で出会った「発祥之地」の説明板に啓発され、都内にある他の「発祥之地」を見つけて歩く「東京発祥之地めぐり」を開始して「寅さん歩」のシリーズもの第一号としました。寅さん歩11～23・176・319をご覧ください。

今回はその後の寅さん歩で出会った発祥之地を紹介します。現地にある説明板は原則として原文をそのまま記載しています。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

#### [東洋女子歯科医学専門学校発祥之地] 文京区本郷一丁目

最寄駅 東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅



東洋学園史料室を訪問した際に、前身は1926年（大正15年）創立の東洋女子歯科医学専門学校と知りました。外に出て壱岐坂

沿いの1号館の脇に発祥の地の碑（写真上右）がありました。写真上左は1号館西壁のフェニックス・モザイク「岩間がくれ堇花」1961年 デザイン・制作指導は今井兼次（1895～1987）です。寅さん歩418 東京の博物館めぐりー53 文京区ー6をご覧ください。

東洋女子歯科医学専門学校は旧歯科医師法第 1 条第 1 号に基づく文部大臣指定校に認可された希少な女子歯科医学校で 33 年間に約 2800 名の女性歯科医師を養成しました。戦後の学制・医療改革に沿って 1950 年（昭和 25 年）に閉鎖し、新たに女性の自立の手段を英語に替えた申請・東洋女子短期大学となりました。短期大学は 1992 年（平成 4 年）4 年制共学の東洋学園大学となりました。

## [日本歯科大学発祥之地] 中央区大手町一丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 大手町駅

大手門から来て永代通りと日比谷通りが交差する大手町交差点（写真下左）を渡った左角に日本歯科大学発祥の地の碑（写真下右）がありました。



碑の脇には「中原市五郎は、この地に、1907 年（明治 40 年）6 月公立私立の歯科医学校指定規則に基づくわが国最初の歯科医学校として、公立共立歯科医学校を創設した。わが国の歯科医学は黎明期にあり、「学・技両善にして人格公尚なる歯科医師の養成」を建学の目的とした。国民の生命と健康を守るため、歯・顎・口腔の医学を教導し、数多くの優れた歯科医師を輩出し、歯科医療の発展と患者の福祉に尽力した。明治 42 年に現在の千代田区富士見一丁目に移転し、日本歯科医学専門学校を経て昭和 22 年に日本歯科大学に昇格した。日本歯科大学は私学として「自主独立」という建学精神を継承し、生命歯学部と新潟生命歯学部の二学部を始め大学院、附属病院、短期大学、博物館を有する世界最大の歯科大学となった」と記載されていました。

## [船員教育発祥之地] 中央区新川一丁目

最寄駅 東京メトロ日比谷線 茅場町駅



永代通りを歩いていて永代橋（写真上左）西詰右側に船員教育発祥の地の碑（写真上右）を見つけました。碑には「政府の自主的な海運政策をすすめるにあたり、船員教育の急務を提唱し、三菱会社社長岩崎彌太郎に命じて、1875年（明治8年）11月この地に商船学校を開設された。当初の教育は、その頃隅田川口であり、海上交通の要衝でもあった永代橋下流の全域に、成妙丸を繫留して校舎とし全員を船内に起居させて行われたが、これが近代的船員教育の嚆矢となった。爾来百年、ここに端を発した船員教育の成果は、我が国近代化の礎となった海運の発展に大きく貢献してきたが、その歴史的使命は幾変遷をへた今日、江東区越中島にある現東京商船大学に継承せられている」と記載されています。東京商船大学は2003年（平成15年）東京水産大学と一緒に、東京海洋大学になっています。寅さん歩 211 東京の学食めぐりー17 東京海洋大学越中島キャンパスをご覧ください。

## [謄写版発祥之地] 千代田区鍛冶町二丁目

最寄駅 JR 神田駅東口



中央通りを今川橋交差点からJR神田駅東口方面に歩いていて、右側の神田消防署鍛冶町出張所近くのビルの壁に謄写版発祥の地の銅板（写真左）を見つけました。

銅板には[1894年（明治27年）堀井新治郎父子が我が国初の簡易印刷機を発明し、「謄寫版」と命名、発売と同時に鍛冶町のこの地に謄寫堂を創業した]と記載されています。銅板には謄寫堂の店前風景が描かれ、前の道は鉄道馬車が走っています。

謄写版とはガリ版のことで安く、手軽な印

刷機として学校や役所の必需品でした。寅次郎もクラスの小学校卒業文集の作成に使いました。

## [バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。全行程約 600 里（約 2400 km）の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022 年 4 月 26 日、江戸深川（現在の江東区深川）の芭蕉庵を出発、2022 年 7 月 17 日福島（現在の福島県福島市）（江戸深川から 458 km）に到着しました。八柳さんのコースシートには、「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

浅香山・信夫の里 福島

途中、街道からすぐ近くに歌枕に名高い浅香山があった。翌日はしのぶもじ摺りの石を尋ねて信夫の里へ行った。その石は半分土中に埋まっていた。村の子どもがやってきて教えてくれるのは「昔はこの山の上にあったが通行人々が畑の麦を抜き荒らして、この石の表面に擦りつけてはためしたりしますので、不快に思って、土地の人々が石をこの谷に突き落としたりしたところ、石の表面が下向きに倒れたのです」という。そんなことがあってよいのだろうか。

「早苗とる てもとや昔 しのぶ摺り」

（注釈：もじ摺り石は今はこんなに下向きにつき落とされてしまっていて、摺り衣の風流の行われた昔の風情を偲ぶよしもないが、おりから早苗とりの、古代以来の神聖な手わざにいそしんでいる早乙女たちの手つきは、さすがにそのかみ衣を摺り出したころの古代の乙女たちの手ぶりを偲ばせていることだ）

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印

刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝